



みんなとも

協働のまちづくり

今回の協働のまちづくりは「剣淵町まちづくり町民会議（通称ワークショップ）」について紹介します。

【まちづくり町民会議とは？】

町民の皆さんの参画を得ながら、まちづくりを一緒に考え、進めていくことを目的に、まちづくり計画や、まちづくりのための課題解決などを話し合い、意見交換の場として「まちづくり町民会議」を設置しました。

この会議には、町内に居住する成年者を中心に20名以内で組織し、様々な視点からご意見・ご提案をいただきながら、最後に冊子（文書・提言書など）の形にまとめます。

当会議は、町民の皆さんと「協働のまちづくり」を進める観点から、当会議での活動（会議出席など）は原則無報酬です。

【第1回目（平成21年度）のまちづくり町民会議の経過】

第1回目のまちづくり町民会議を、平成21年6月に設置しました。今回は、平成23年度からの10年間の長期計画（第5期総合計画）に

ついて、「生活環境」「産業」など各分野を様々な視点から意見等いただき、平成22年3月に当会議の代表者から町長へ提言書が提出されました。

町では第5期総合計画の策定にあたり、町民向け、団体向けアンケートや中・高校生アンケートなどの調査をはじめ、より多くの町民の皆さんの参画を得たなかでの計画づくりに心掛けました。

まちづくり町民会議に参画いただいた皆さんのご協力により、第5期総合計画づくりへの参画とともに、まちづくり町民会議の目的を無事果たすことができました。

今後も町民の皆さんの協力を得ながら、これからのまちづくりについて一緒に考えていきたいと思えます。

まちづくり町民会議は、新しい住民参画の姿であります。



▲平成21年度のまちづくり町民会議の様子



「鬼はく外、福はく内！」。節分の行事といえば、家族で豆まきですね。でもなぜ節分には豆をまくのでしょうか？それには意味があり、かつて、穀物や果実には「邪気を払う霊力」があると信じられていたので、豆をまくことでその霊力により邪気を払い、福を呼び込むことができると考えられたそうです。「煎った」大豆を使うのにも、陰陽五行（自然の道理を木、火、土、金、水の五元素で表したもの）のうち「金」は硬さや厄病を表します（鬼の金棒も金）。大豆は硬いので「金」、また、鬼も金に例えます。そして「金」の作用をなくすのが「火」。つまり大豆を火で煎って邪気をはらい、同時に、まいた大豆を人間が食べることで、鬼を退治することを意味しています。豆は、鬼をやっつける道具であり、実は鬼そのものも現していました。

最後に、近年の節分の風習として、「太巻き寿司（恵方巻き）の丸かじり」もあります。